

手を洗おう会 aphw 会報



Association for the Promotion of Hand-Washing

第七回 世界の子供絵画展 テーマ：わたしの町



リベリテ サンク

最優秀賞： アワ ディフちゃん (10歳 女の子) Liberité V セネガル

<庭に守護神であるバオバブの木があり、ニワトリやヤギを飼っている私の村>

第八版 2011年5月発行



はじめに

—東北太平洋沖大震災に対し—

— 古屋 典子 —

届け！ 手を洗おう会の皆さんの思い

この度、東北関東の広範囲に渡る震災被害、それに伴う原発問題に際し、世界中で激震が走り、戸惑い、一人一人がどう行動するかを考えさせられています。速やかに会の役員が集まり、これまで支援を必要としている海外の子供達に対し、協力してきて下された「手を洗おう会」の皆様の大変な思いを、この度の被災地へも届けたいと話し合いました。初動体制として、会の目的である衛生支援となるよう「日本赤十字社」へ義援金を送らせて頂きました。被災地の復興への成就までの長い道のり、皆様のご協力を得ながら今後は、衛生環境改善や国際交流の観点から有形無形な方法を精査したいと役員一同、決意を新たに致しました。



—特定非営利活動団体/NPOとして登記完了—

2002年の暮れに、セネガルのウッド大統領夫人の要請のもと、現地で始めた「手を洗おう会」。その後内野訓子さん、石井里江子さん、そして山田順子さん達と日本を基軸にボランティア団体として活動を始めて、九年目を迎えました。子供絵画を杉浦保子さんが担当してくれ、現在では、沢山のご協力下さる皆様のお陰を持ちまして、セネガルを初め、ベトナムや南アフリカにて手洗い支援及び、子供絵画交流をささやかながら継続させて頂いております。

ただ海外で活動するには、どうしても公的に認められる認定書が必要という場面に出会うことが多く、活動の制限を余儀なくされてきました。NPO法人登録をしていない事が活動の規制となっていることを痛感していた頃、公認会計士の八田拓三さんが、一月末にバン格拉デッシュに赴任直前に、法人化登記への申請書類電磁化へ向けて尽力を注いで下さり、更に監事をも引き受けて下さいました。お陰で1月28日に横浜市に、NPO(特定非営利活動団体)の設立認証の申請書を提出。5月11日には横浜市民局より認証書を授与し同日、横浜市の法務局にて、無事NPO設立の登記を完了し、16日に登記簿謄本を受領しました。

この上は、皆様の更なるお力をお借りしながら、NPO法人団体として、国内外問わず責任ある支援ボランティア活動を続けていけたらと願っております。

会員の皆様、どうか今後とも、変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

NPO法人設立を目的に1月13日(土屋のり宅にて)、以下の15人の理事及び2人の幹事で総会を開き、「手を洗おう apha」の総則として次頁のような目的、活動の種類を定款に定めた事を報告させていただきます。

常任理事—古屋、内野、杉浦、山田、村上

理事—今井、北島、塩澤、志賀、武井、永石、野村、星、前田、三村 監事—高松、八田

(名称)

この法人は、特定非営利活動法人 手を洗おう会 apwh と称し、英文表記を Association for the Promotion of Hand-Washing APHW とする。

(目的)

この法人は、主に開発途上国における衛生基準を満たしていない子どもたちを中心とした一般市民を対象として、手洗い指導はもとより石鹸などの衛生用品の支給などを行うと同時に、糸口として文化交流事業や絵画展事業などの国際協力事業を併せながら、「手洗い」を基本とする衛生に関する生活環境改善の支援等を行うことで、健全な生活環境での豊かな国際社会の実現に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 国際協力の活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動

(事業の種類)

この法人は、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 衛生に関する生活環境の改善支援事業
- (2) 衛生面に関する生活環境の調査研究事業
- (3) 生活環境改善教育事業
- (4) 国際協力事業
- (5) 生活環境改善教育および国際協力に関する普及啓発事業
- (6) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業



— 会報の目次 —

- p 1 : はじめに 東北太平洋沖大震災へのお見舞 & NPO法人登記完了報告
p 2 : NPO法人としての総則 & 目次
p 3 : 新駐日セネガル大使、デウフ氏からのメッセージ
p 4 : 澤村さち子さんのセネガル訪問
p 5 & p 6 : 東日本大震災の被災地から神坂礼子さんの体験レポート
p 7 : 2010年度最優秀絵画の紹介 & 2011年度絵画募集
p 8 : 2010年の活動 & 2011年催しもののお知らせ & 年会費のご案内
p 9 : 会計報告 (2010年1月～12月)

編集：今井弓、澤村さち子、杉浦保子

駐日セネガル大使着任

ブウナ・セム・デュフ・大使からのメッセージ



東日本太平洋沖大震災に際し、心からお見舞い申し上げます。

赴任して間もないこの美しい日本が、このような無残な現状におかれています事に心を痛めております。一日も早い復興を心からお祈りいたします。

「手を洗おう会」は創立以来、セネガルに大変貢献されてきました。具体的には、セネガルを訪問・教育施設を視察され、石鹼をはじめ衛生用品を供給されました。また、セネガルにおける「手を洗おう会」支部、子供の衛生協会、ウオロフ語で「Setal Xale (セタルハル)」も設立されました。また、「手を洗おう会」の役員のみなさまは、セネガルを訪問される度に、セネガル共和国大統領夫人をはじめセネガルの要人と謁見され、話し合いを行なわれました。

セネガルは、「手を洗おう会」の活動を奨励し、支援いたします。それは、代表の古屋典子氏が、当時在セネガル日本大使をされていた古屋氏と共に実際にセネガルに住んでいらっしゃることもありますが、セネガル政府が保健衛生分野、セネガルの未来を担っていく子供の育成・保護を重要視しているからです。実際、五つの省庁が衛生、生活環境、保健・予防、児童・家族・環境保護、自然保護の分野を管轄しております。

最後に、児童絵画コンクールやお茶や書道など教育、文化的な分野における皆様のめざましい活躍に感服いたします。これらの活動を通じて、関係国の人々は互いの慣習の知識を深め合い、歩み寄ることができるのです。今後も日本とセネガルの国の友好そして協力関係を強めていければと強く願います。

2011年4月

在日 セネガル共和国 特命全権大使 ブウナ・セム・デュフ

「手を洗おう会 aphw」のセネガル活動

—澤村さち子氏からのセネガル訪問時の報告—



この度のセネガル訪問での活動報告は、主に二つあります。(授与式) (右: 寄付したカナクラ)
まずは第六回子供絵画コンクールの入賞者に賞状・プレゼントを授与です。コンクール入賞者の授賞式を、6月11日にリベルテ・サンクというダカール郊外の小学校で開催致しました。リベルテ・サンクをはじめ関係校の校長先生、先生方8名と入賞者、そして手を洗おう会セネガル支部責任者、ジョオム氏と澤村が式に出席しました。
各校長先生方と、手を洗おう会の代表代理で澤村が子供たちに賞状を授与いたしました。既に卒業してしまった生徒や欠席の生徒の受賞は、関係校の先生に生徒代理を努めて頂き、受賞者20名全員に、賞状、記念ポストカード、賞品のバンダナが授与されました。ささやかな式典ではありましたが、子供たち一人ひとり、とても誇らしく賞状を受け取り、感謝の言葉を述べていました。この嬉しい思いが手を洗おうという気持ちに繋がって欲しいです。

もう一つ皆さまにご報告しなければならないことは、各学校のクラスへ寄付した手洗い装置「カナクラ」の現状です。すでに前回会報の中でお伝えしたように、カナクラは子供たちの遊び道具になり破壊され、改良のためすべてのカナクラがドクターヴォネールのもとに戻されています。改良中のカナクラを見せていただこうと、ドクターの自宅兼カナクラのギャラリーを式典後に訪ねてみました。残念ながらドクターはベルギーの選挙で、投票をするため留守でしたが、カナクラを知らない私のために、ドクターにかわりに夫人がギャラリーを案内してくださいました。学校に設置されるカナクラはギャラリーにはなかったので見ることが出来ませんでした。普通の自宅で作られる芸術的なカナクラを見せて頂きました。そしてこの美しいカナクラの3つの利点を説明して下さいました。

1. 必要な水だけ使えるので水を節約
2. 汚れた手で蛇口をひねる必要がないので衛生的、
3. 木の実など自然の素材を利用して作られているので自然環境に優しい (芸術的なカナクラ)

自宅用のカナクラはとても美しく、インテリアとしても使用可能なとても繊細な芸術作品と呼べるものでした。小学校に設置予定のものは、勿論もっと丈夫で、子供たちが楽しく手を洗えるようカラフルなものにしたいと言っていました。実現が楽しみです。(2010年6月訪セ)



セネガル支部長マムール・ジョオム氏からのメッセージ

この度の日本の震災に際し、大変なショックでただただ驚いています。
貴協会の支援はわれわれにとってたいへん有益なものです。この度の日本の被災に心を痛めるとともに、これまでの支援に対し報いることができると願っています。
今日まで貴協会が我々に与えてくださったこと、保護者、関係校校長の名の下厚く御礼申し上げます。「手を洗おう会」は絵画コンクールなど様々な活動を通じ、子供たちの健やかな成長を助けてくださいました。支援のお陰で、関係校では様々な活動を行うことができました。



～3.11 東日本大震災 被災地仙台からのレポート～

人と人がつながることで安全・安心な日本復活の第一歩へ

3月11日、東北と関東の太平洋沿岸地方に甚大な被害をもたらしたマグニチュード9.0の東日本大震災から約2ヶ月が経つ。地震が、津波が、原発事故が夢だったらどんなによいか。しかし、震災を境に「世界一安全・安心な日本」は過去のものとなり、日本中に暗雲がたちこめている。ただひとつ確実なのは、巨大地震が大津波と放射能までも引き連れ、日本をまるごと呑み込んでしまったという事実だ。

大地震のその日

3月11日、私は仙台駅前の高層ビルの14階にいた。14時46分、携帯が地震警報を告げ、「これは」と思った瞬間、もう立ってられないほどの激震を感じ、すぐテーブルの下にもぐりこんだ。そんな私を床から引き剥がすように、縦に横に波打つような強い揺れがひっきりなしに続く。眼下の駅ビル屋上に駐車中の車がフェンスを乗り出しそうになり、白煙を出すのが見えた。ビル全体が大きく振れ、ガシャン、ガシャンとガラスの割れる音がして、映画「タワーリングインフェルノ」を思い出し、もう死ぬのかと思った時に浮かんできたのが夫と子供の顔だった。その瞬間「何があっても生き抜く」という強い思いがこみあげてきた。

呆然自失の2週間

地震から最初の2週間はまるで時間の感覚が失われたようだった。美しくのどかな三陸の風景。素朴な人々の暮らしが失われ、一夜にしてがれきの山と化してしまった。「まさか」という事態に何も手につかず、気がつけば、家々や車を呑み込んでいく大津波の映像を一日中食い入るように見る毎日。余震も頻発、ガスも使えない。食料やガソリンの調達にも走らなければならない。そうした中で、復興という言葉を目にする度に、元の生活って何？ 本当に何が起こったのか？ 復興すべきは何なのか？ 「被災地にいる私たちが実際に津波の被害を見ておく必要があるのでは」と夫と共に仙台空港から仙台港方面に車を走らせた。見慣れたはずの景色は一変、無数の車が建物や道路に突き刺さったり、スクラップ状態に重なっていたり、大型漁船がはるか内陸部まで運ばれたり、徹底的に破壊し尽くされた景色が延々と続き戦場のようだった。大自然のエネルギーの前ではこんなにも人は無力なのだと思うにいられなかった。

鈴木裕子さんと無事を喜ぶ

「手を洗おう会」の会員の鈴木裕子さんとも連絡がとれ、無事を喜びあった。裕子さんは全面ガラス張りの「メディアテークせんだい」の前で地震に遭遇し、大きく波打つガラスに恐怖を感じてしゃがみ込んだが、ガラスは1枚も割れなかった。揺れが収まり、我に返った裕子さんはすぐにタクシーで自宅に一人でお母様のもとに駆けつけたところ、サイドボードや仏壇などが倒れ大変な状況だったが、お母様はベッドの中にいたため怪我一つなかったという。裕子さんの大切なコレクションの器も無残な姿となったが「これからはモノに執着しない生き方が大事ね」と二人でしみじみ語りあった。

被災者に直接支援物資を届ける

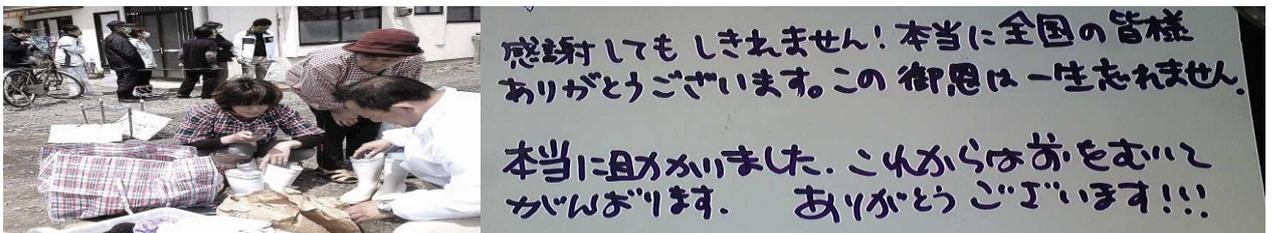
死者、行方不明者の数は2万8千人を超え、避難所で暮らす人の数は約15万人超、被害の全貌はいまなお掌握しきれていない。未曾有の被害の前に「自分ができることは何か」を模索し、支援の手を差し伸べようとする人が急増した。私たちのもとにも東京や千葉、金沢、札幌など

から「行政に送っても本当に届くのが心配。直接届けて欲しい」との思いとともに支援物資が託され、それに応える形で夫と私は肌着や、粉ミルク、オムツ、衛生用品などを七ヶ浜や気仙沼、石巻などのキーパーソンとその周りの人たちに届ける活動を始めた。被災地には支援者の名前を伝え、支援者には届けた際の写真と報告書を届けている。ランドセル、長靴などはとくに喜んで頂いた。直接会話することで避難所間の格差や厳しい自宅避難者の生活についても情報収集できる。行政からの菓子パンやカップラーメン中心の食事提供に疑問を感じるとともに、地域によっては過酷な衛生状態にあること、さらには今後続くであろう経済的に困難な状況など課題は山積みと感じている。支援は一過性の自己満足に終わってはならない。これからこそ本格的な支援が必要といえる。

支援したい人と困難な人をつなぐために

先日、行政に送られた支援物資を配布することができず、時期はずれになったり、保管もできない状況になり、一般市民にも無料で配布したとのニュースが報じられた。廃棄処分する行政さえもある。被災者へと信頼して送った人たちの思いは、いったいどこに行くのだろうか。

そんな中、新しいスタイルから誕生した支援の形もある。ツイッターというインターネット上の情報ツールを通じて出会った神戸や東京の若者たちと仙台の私たちとが連携し、地元石巻で地区の窮状を見かねて立ち上がった女性への支援を行い、先ごろは石巻市渡波で物資提供のフリーマーケットを開催した。彼らはごく普通の会社員やアルバイトで人脈も資金もない。「被災者に直接届けたい」との気持ちで行動を起こし、協力者を募り、神戸の女性は募金を20万円集め、それらを米や缶詰、納豆などの支援物資に換え、車を走らせてきた。地元との関係プレーに基づいたそのフットワークのよさ、ひたむきさは頼もしく、新たな可能性を感じている。



そうした次世代を担う若者たちに、私たち「大人」は何を残せるのだろうか。

人間は進化の歴史をたどるうちに、経済を最優先し、効率化、合理化を重視する高度文明社会を作り上げた。一方で、大自然に対する畏敬の念を忘れ、全てを人間がコントロールできるという驕りをもっていたのではないか。豊かさ、便利さを追求することは諸刃の剣であること、大自然のエネルギーを決して侮ってはいけないことを今回学んだ気がする。また、日本が、世界中が大きな悲しみに包まれ、直接的な被災者にとどまらず、誰もが心理的なダメージを負っている。なぜなら、この被災地東北に多くの人が「ふるさと」を見たのだと思う。津波の被災地にとどまる人々、原発事故で住み慣れた町を後にせざるを得ない人、「人」は「ふるさと」と深くつながっている存在であると世界中の人々が改めて感じたに違いない。過酷なはずの被災者の皆さんの笑顔に私たちのほうが励まされる。大事なのは、被災者を難民にしないこと。一日も早く日常の中に戻ってもらうことだと思う。そのために私は共感によってつながった人とともに、できることを続けようと思った。物資提供をしてきた過程を経て、現在はワンコイン募金による長期的な支援体制を準備中だ。(筆者の体験が伝わってきますので原文のまま記載致しました)

末筆となりましたが、「手を洗おう会」の皆様から丁寧なるお見舞いや温かい励ましのメッセージを頂戴し、本当にありがとうございます。今後も復興に向けた被災地の動きをお伝えできたらと思います。

2011年5月15日 神坂 礼子(仙台在住 会員)

2010年度 子ども絵画最優秀絵画 タイトル：わたしの町

『わたしの町』と題する各国からの作品は、どれも個性的で私たちにも夢を与えてくれました。沢山の応募作品の中からお国柄が活かされたオリジナリティのある50の作品が入賞致しました。紙面の都合上、会報には、七カ国の最優秀作品のみをご紹介します。



ジャカルタ・独立広場 わたしの町 (貧民街)



わたしの村 (聾啞学校)



わたしの街 (パリ郊外)



わたしの町 (バンコクの祭り)



わたしの家 (ダカール)



ぼくの住む港 (横浜)

2011年 子供絵画募集

“手を洗おう会”では本年もセネガル、ベトナム、フランス、南アフリカ、タイ、インドネシアそして日本などの小学生から楽しい絵を募集しています。

対象 : セネガル、ベトナム、フランス、南アフリカや日本などの小学生
 題 : 未来の世界 (未来の学校、大人になった時の私、未来の家族、
 未来の自分の町、未来の地球など)

画用紙サイズ : 八つ切り (A3も可)

画材 : 色鉛筆、絵の具など何でも可

締切日 : 2011年9月30日 (土曜日)



2010年&2011年「手を洗おう会」の催しもの&会費納入のお願い

2010年の活動

6月：高松 章二氏&ンジャイ林 恵美子氏によるアフリカに関する講演会 By JICA

7月：ティンカー ネイサンさんによりピアノコンサート 楠原賀陽子さん宅

11月：チャリティランチ「冬の祭典」—ヌグバネ大使ご夫妻&デュフ大使参加

小林倫子さんのバイオリン演奏や二木てるみさんのお話、バザーなど開催

* 本年の会報は、会員による震災寄稿の為 2010年度の活動報告は割愛させて頂きました。

2011年 第七回子供絵画展示会

セネガル・ベトナム・南アフリカや日本など7カ国の子供達が「私の町」というテーマで描いた、オリジナリティのある絵画50点を下記で展示致します。

日程： 5月17日～5月29日 2週間（月曜日は休館）

時間： （平日）10時～20時 （土・日）10時～18時

場所： JICA 地球ひろば（日比谷線広尾駅3番出口）

—5月29日は11時より15時まで楽しいワークショップがあります

2011年度 夏の特別講演会

日程： 7月4日（月曜日）午後2時から4時半

時間： 午後2時開場 2時30分開演

場所： 代官山 アシダジュン本店 サロンフレアー

講演：[エンカルライフ ファッションと食事で世界を変える]By 生駒 芳子氏

会費： 3,000円

2011年 チャリティランチ「冬の祭典」&総会

時： 11月7日（月曜日）12時～15時

於： 東京ウェスティンホテル（恵比寿）

会費： 10,000円（うち2,000円はチャリティ支援金）

会員の皆様へ - 2012年度の会費納入のお願い

いつも「手を洗おう会 aphw」へのご支援、ご協力感謝いたします。

年会費:3,000円

振込先：三菱東京UFJ銀行

上北沢支店：160

口座番号：(普通):0028934

口座名：テヲアラオウカイ アピユウ カイケイ ムラカミ ハリコ

* 貴方様のお名前にてお振込み下さい。

* ご注意：NPO法人設立に伴い、振込口座はゆうちょ銀行から三菱東京UFJの銀行になります。

会員&会員以外の皆様へ

<募金> “手を洗おう会”では、石鹸や洗浄機などをセネガルやベトナムの学校等に寄付する資金を募っております。上記の口座にお振り込み頂きますようお願い致します。

手を洗おう♪ 幸せのために♪

会計報告

<手を洗おう会aphw 2010年度収支表>

2010年1月～12月

【収入】 科目	摘要	金額
会費収入	2011年度会費 @3,000円×9名 中途会員@1,500円×3名	¥31,500
	2010年度会費 @3,000円×98名	¥292,500
	講演会(平成22年6月24日高松章二氏&ンジャイ恵美子氏 43名参加)	¥49,223
	ピアノコンサート(平成22年7月27日サロン・デウ・カヨコ44名参加)	¥76,488
	絵画展(平成22年7月20日より一週間—JICA地球ひろばにて)	¥30,590
	冬の祭典(平成22年11月8日ウエスティンホテルにて172名参加)&カルチャーより寄付	¥958,944
	寄付(本の収益より5パーセント寄付など)	¥68,000
収入計(①)		¥1,507,245
【支出】 科目	摘要	金額
活動費	セネガル支部(内訳)石鹸代・画材費・ジャベル代等	¥240,300
	ヴェトナム支部(内訳)石鹸代・スカーフ代等	¥91,700
	青年協力隊支援金	¥218,000
郵送費	絵画・絵葉書・会報等郵送料	¥51,362
事務用品費	ファイル・賞状・インク代等、コピー代	¥109,450
会場費	スタッフ会議等会場費など	¥22,500
手数料	振込手数料(海外への送金など)	¥22,400
雑費	パネル代・JICAロッカー年間賃料等	¥11,940
支出計(②)		¥767,652
収益(①-②)		¥739,593

(会計)村上

(監査)内野

*2012年度の会費納入は8ページをご覧ください(この会報は2011年度会費納入の皆様へに配信しております)

*会計、及び領収書に関しては、右担当までご連絡ください。村上範子 Tel:03-3329-3290

* aphwセネガル支部長、ベトナム支部長, 各国の絵画担当者や子供達より東日本大震災へのお見舞状が届いております。

<会報係から>

皆様のご協力のお陰をもちまして、会報も第八版となりました。

これからも会員の皆さまに眼を通していただけるような会報作りに努めて参ります。

2011年5月